

ちよつと気になる

「こんな夢を見た」と

いう文章で始まるのは、

夏目漱石の『夢十夜』。

瀬戸内海に浮かぶ直島なおしまの

人たちはこの10年の間に

起こった出来事を夢の中

で起こったことのように

思っているのではないだ

ろうか。

始まりは007の新作

ジェームズ・ボンドは来ない

松岡 圭祐 著



(角川書店 1512円)

映画の舞台が、この島に上げていくというのだ。なるのではないか、という話が舞いこんだことだ。なんでもこの小説の原作者が滞在して原作を書き

007の舞台となる夢を見た

が集まることに夢と期待が膨らんでくる。若いも若きも世界的な観光地になり今より便利になることを夢見始める。やがて香

川県も巻き込み、マスクの注目度もアップ。映画化までのカウントダウンが始まった。日本の地方の財政逼迫は深刻だ。夕張市の財政破綻の姿は、明日は我が身と知っている市町村は多い。自力再建が見込めないなら、空から降って

くるような幸運を、絶対に逃すわけにはいかないのだ。NHKの「あまちゃん」しかり、韓流映画「冬ソナ」しかり、人気が出れば観光客が押し寄せ、伝説の「ウッドストック・コンサート」も寂れた町をなんとかしようとする住民たちの呼びかけから始まったのだ。

・ボンドは来ない』は実際に直島に起こった出来事をベースにした、いわゆるノンフィクション・ノベルである。知らないから怖くない、だから無茶だつてできる。仲間と夢を追うのって、ひとりで夢を見るよりずっと楽しい。直島の007記念館に一度行ってみようと思う。

松岡圭祐『ジェームズ・ボンドは来ない』(書評家 東えりか)